



## 多職種連携会議 ～顔のみえる関係づくり～

おかざき ゆきとも

岡崎 幸友 准教授(吉備国際大学社会福祉学科)

**住み慣れた地域**で安心して暮らすためには、医療と福祉、介護の連携は欠かせません。予防、診療から介護まで**切れ目のないサービス**を受けられる仕組みをつくる必要があります。そこで今回は、多職種連携会議に伺って、在宅医療を推進するための取り組みについて取材してきました。

多職種連携会議は高梁市在宅医療・介護連携推進事業の一環として、年3回開催しています。第1回目の今回は、市内に勤務する医師や看護師、ケアマネージャーといった専門職73人が参加して、医療と介護の**多職種間連携**を促進するための情報共有ツールである「やまぼうし」のさらなる活用をテーマに、活発な意見交換が行われました。

仲田永造推進協議会長から「やまぼうし」について、これまでの取り組みと課題解決策、新しい試みについて説明があり、また、多くの専門職が活用することの重要性についてお話がありました。その後、9つのグループに分かれてそれぞれの立場から意見交換が行われました。

**チーム医療**を提供するための情報共有ツール「やまぼうし」ですが、より効果的なシステムへの改良と多職種への普及のため、それぞれのグループから、具体的な活用紹介などがありました。例えば、お医者さんが往診に行くまでの間に体調の変化などの情報を予め提供をしておくことで、**良質な医療サービス**を利便性よく受けることが可能となります。

中山間地域に広がる高梁市で、安心した生活を送るには、情報ツールの活用は必須といえるかもしれません。事業所や専門性の異なる多職種の連携は容易ではありませんが、共通の目標をもって協力する事により、地域の医療・介護支援が充実してくるかと感じた会議でした。



☎ 医療連携課 ☎(21)0304



### キラキラきらめく⑧

#### 上山 拓也さん

うえやま たくや 26歳 中井町津々

中井町生まれの拓也さんは、総社市に通勤し、今も中井町で暮らしています。高梁について「自然が豊かで、穏やかで、好きですね」と話します。

熱中しているのは、野球。「ただの草野球ですが、地元の友だちや職場の仲間とチームを作って、練習や試合をしています。野球は中学・高校とやっていたのですが、今も続けていて本当に良かったと感じています。運動にもストレス発散にもなるし(笑)、なにより、友達と会って一緒に楽しめる機会になっているので」とのこと。

将来の目標を尋ねると、「いつか、父親になりたい」。そして、「自分が良い状態でいないと、他人に優しくできないと思うんです。だから、まずは自分が充実してられるように、気をつけています」と語り、笑顔を見せてくれました。